

琉球大学学術リポジトリ

「プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー」受賞に際して

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学教育センター 公開日: 2018-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 野口, 浩 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/41305

「プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー」受賞に際して

「現代会計のしくみ」担当 野口 浩（観光産業科学部）

はじめに

この度、「現代会計のしくみ」の講義が、プロフェッサー・オブ・ザ・イヤーの榮譽を賜り、とても嬉しく思っております。学生および関係各位の皆様方に感謝申し上げます。以下において、当該講義についてお話しさせていただきます。

1. シラバス作成

シラバス作成には、かなりの時間を割いた。私が一昨年（2019年）の4月に琉球大学に着任した際に受講した琉球大学新人教員研修において、「シラバスは学生との契約」ということを教わっていたためである。契約ということになれば、それを履行しなければ、債務不履行ということになる。シラバスを作成しながら、15回の講義のイメージができあがった。

2. 学生の履修

定員は120名としたが、80名くらいが理想だと考えていた。しかし、ふたを開けてみると、初回の講義は履修を望む学生であふれていた。結果として、全員を受け入れて、約170名の履修となった。全員を受け入れたのは、会計のおもしろさをできるだけ多くの学生に知ってもらいたかったからである。

3. 講義について

(1) 基本方針

可能な限り、最初に決めたシラバスどおりに進んでいくことを基本方針とした。そこがぶれると、自分も学生も混乱するからである。

(2) 講義の工夫

- ① 原則的には、学術的な講義を目指し、そこに実務のエッセンスを盛り込んだこと。
- ② 基本的で読みやすいテキストを1冊用いたこと。
- ③ 音声付きのパワーポイントのレジメを、副教材として使用したこと。
- ④ 講義が一方通行にならないように、可能な限り、ディスカッションを行ったこと。

(3) 失敗したところ

- ① 受講者が多すぎて、ディスカッション時に収集がつかなくなるのが何回か起こったこと。
- ② 後ろの席に座っている学生を時々寝かせてしまったこと。

(4) 講義内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 決算書のイメージ
- 第3回 損益計算書を理解する①
- 第4回 損益計算書を理解する②

- 第 5 回 貸借対照表を理解する①
- 第 6 回 貸借対照表を理解する②
- 第 7 回 資金調達について
- 第 8 回 投資について
- 第 9 回 決算書のルール変更
- 第 10 回 キャッシュフロー計算書を理解する①
- 第 11 回 キャッシュフロー計算書を理解する②
- 第 12 回 3 つの決算書についての総まとめ
- 第 13 回 公認会計士と監査について①
- 第 14 回 公認会計士と監査について②
- 第 15 回 税理士と税務調査について

4. テストについて

公正な試験となるように（カンニングを防ぐために）、3 人掛けの椅子の両端に座ってもらった。

5. 学生への期待

- ① 会計学とは、単なる帳簿付けの学問ではなく、資本主義の根幹を担う学問であることを理解してもらうこと。
- ② 公認会計士、税理士および税務署の仕事の意義を理解してもらうこと。
- ③ この講義をきっかけとして、会計に興味を抱いてくれること。
- ④ 会計に興味を抱いてくれるのであれば、日本商工会議所主催簿記検定 3 級の取得を目指してもらうこと。

おわりに

この賞を頂けたことは、自分の励みとなりました。今後も、教育活動に邁進していきたいと思っております。また、私の技術力の無さが招く使用機器のトラブルに際して、快くご対応して下さいました共通教育棟事務局の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。